

梨「幸水」糖度高く 三重・JA伊勢



出荷された梨を検査する担当者

は、市場と連携し、需要期の販売に力を入れる。

今年産の生育について同JAの担当者は「7月中旬以降に雨量が少なく、やや小玉の傾向だが、糖度は高くみずみずしくて、おいしい梨に仕上がっている。贈答用として8月盆需要に期待している」と話す。同部会は、同JA管内では、部会員19人が約6畝で「幸水」などを栽培している。同町は、伊勢平野の温和な気候に恵まれており、甘くて、シャリ感が十分に楽しめる梨が育つ。同部会では、先進地視察などで、生産者の意識向上と産地づくりに努める。

【三重・伊勢】伊勢市小俣町にあるJA伊勢小俣集荷場で7月下旬、梨「幸水」の出荷が始まった。同JA小俣梨部会では8月中旬までに、3^{キロ}の化粧箱と5^{キロ}箱を合わせて約25^トを県内市場に出荷する計画だ。